

二〇〇九年度 推薦入学試験 (B日程)

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は26ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認してください。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んでうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

国

語

(60分 100点) (解答番号

1

42)

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(49点)

昨日の朝、家人に車で送られて白河の関のある旗宿へ着いたのが九時半だった。そこからひとり歩き出した。芭蕉と曾良⁽¹⁾のあとをたどって、白河の町まで行くのが狙い^{ねら}だった。

昨年⁽²⁾の夏、同じく夏休みを利用して私は那須温泉の湯本から芭蕉と曾良のあとをたどって、黒田原から芦野の里へとひとり歩いた。芭蕉らは一日で湯本から芦野、白坂の明神を通って旗宿まで十里歩いたが、現代の車になれた私の足では芦野までがやっとだった。芦野の丁字屋という古い宿に一⁽²⁾パクして、次の日、白坂を経由して小雨のなか、旗宿へ着いたのが日暮れだった。旗宿から回送車のバスに無理に乗せてもらって白河の駅へ出て帰ったのだが、そのバスで帰った部分を今年歩いてみる計画だった。旗宿では、白河の関のほか一丁仏を見て、それから関山へむかって歩き出したが、どうしてか今年⁽³⁾は落ち着かなかった。それでも内松から関山への参道は芭蕉のころとまったく同じとおもわれる一尺^(注1)ほどの赤土道で、激しい⁽³⁾つづら折りの道だった。山頂近くの僧坊は戸だてで無住。そこからもう一坂のぼると鐘⁽⁴⁾ロウがあつて、鐘は寛文四年の作。私は誰もいない^(注2)ことをいいことにして、おもいきり鐘をついた。

関山山頂十一時半だった。そこでしばらく、(5) おもいにふけろうとしていると、自衛隊のジープがのぼってきた。彼らは何か地形を調べているらしかった。

私は観念⁽⁶⁾して、下山にかかった。さっき来た道とは反対のジープが来た砂利道を白河へむかって下山した。下山してから私は道を間違えて、沢沿いに遠まわりをして亀石橋から夏梨子^(注3)というところへ出て、合戦坂^(注4)に着いたのが、三時ちよつと過ぎだった。

合戦坂は、戊辰戦役のときも激戦があり、多くの戦死者がでたところらしかった。坂の下には戦魂供⁽⁷⁾ヨウ塔が建っていて、そこには慶応四戊辰年五月朔日大合戦と書いてある。

私はしばらくその柵^{さく}囲いのなかにうずくまっていた。関^との声をあげ、命をかけて血なまぐさく戦ったそのいくさは、今にしてみれば何だったのだろう。⁽⁹⁾ひとりぼっちをごまかすように私はそこで咳^せばらいをした。

その合戦坂から二、三百メートルもくだったろうか、道の右手に偶然石に刻んだ案内があった。

白川城趾入口

芭蕉の行程には何の関係もなかったが、私はそこから右に切れて、野道を⁽¹⁰⁾はいっていった。

山の下を道は奥へ深く、なかなか城は出てこなかった。かなり進むとまた案内があった。

左、白川城趾に至る

そこからは大きくひとまわりするようにして城への道がつづいていた。

城の石段口には、この城の由来が書いてある。山城の代表的なもの、などということばも見える。東国官軍の一大根⁽¹¹⁾キヨ地、とも書いてあった。

私は石段をのぼっていった。六十級弱の石段だった。のぼりつめると上はただ広場になっているだけ。赤松がその広場をおおっている。その赤松の間から西のほうをのぞむと、眼下の狭間^{はざま}に、ひとかたまり、白河の町があった。そのまた西には那須五峯が遠く⁽¹²⁾見え、その山なみの右手のはずれに甲子岳があつて、そこで山はきれていた。

それはいかにもいい眺めだった。

私は松の木蔭^{こかげ}に腰をおろして、笠^{かさ}をとって汗をぬぐった。そしてその遠い眺めを、いつまでも眺めていた。

夏の太陽はすでに弱って、西にひくくなりかけてきた。

広場の西の心持ち高くなったところには、この山城を築いた城主結城なにがしかをたたえる忠烈碑が、⁽¹³⁾たっている。

私は腰をあげ、その、蘇峰 徳富猪一郎撰^{せん}文の前に立って、⁽¹⁴⁾碑文を読んでいた。と、右手の桜の枝から何か落ち

るのがわかった。それは桜の葉よりも早い落ちかただった。

私はそこに行ってみた。⁽¹⁵⁾ 生い茂る夏草の上に、蟬が一匹、仰向けに落ちて死んでいた。

私はそれを拾いあげた。すると蟬は急にてのひらのなかで爪をたて、
(16) 鳴き出した。

まったくの静けさのなかで、⁽¹⁷⁾ どきもをぬかれて、あやうく手放すところだった。

その声はまさに天も地もなくなるほどの大ききだった。鳴き止んでいたあたりの蟬までが、短く鳴いて飛んで逃げた。しかし、その鳴き声もそうながくはつづかなかった。

私はナップザックをおろすと、ひもを開けてそのなかに入れた。

白河の駅へ急ぐ私の背で、蟬はかりかりとナップザックをかいていた。

⁽¹⁸⁾ 白河の駅だった。ふと、私は乗客の会話を耳にはさんだ。

「あれもない。^(注2) これから楽になる矢先はない。四十五やそこらでない」

「ばあちゃん、⁽¹⁹⁾ ジュ命には勝てないのよ」

「そうでない。それでもあれのことを考えると、⁽²⁰⁾ 不感でない。苦勞のしつぱなしでいいとこなかったっばい」

「やめなよ」

若いほうが低い声だった。

「あれは子供のころからしつかりもんでない。嫁に行くときも、何もいんね、働けば^{たんす} 箆筒も着物もできつからってない」

「そんなこと、今、言ったって」

「きょうだいであれがいつとうやさしくってない。来っといつもこっそりかくして銭をくれてない」

「やめてよ、ばあちゃん」

そこで会話はとぎれた。

白河の駅から私が乗りこんだ黒磯までの終列車は、特急と急行との二本の列車を通過させるために、この白坂の駅で停車していた。乗客は、この車輛しやうりやうには、私と私が坐すわっている座席から三つほど前の座席にいる老婆とその孫娘らしい二人きりほかにはいなかった。あたりはまったく静かで、線路の方で鳴いている虫の鳴声も聞こえるほどだった。

老婆のすすり泣きの音が、しばらくのあいだそれにまじった。

不意に、それらの音をかき消して、轟然ごうぜんと特急が通過して行った。

私はそれを機会に立ちあがって、通過した列車を見るふりをして、あらためて二人のほうを (21) 見た。娘のほうは私に背をむけて坐すわっていて黒髪しか見えなかったが、その黒髪とむきあつて坐すわっている老婆は、真正面に見えた。前かがみになって、細い手を顔にあてて、髪は真白で、小さかった。

私はあわてて腰をおろした。坐りしなに遠く闇やみに消えていく特急の赤い尾燈がかすかに見えた。

あたりはまた静せいにかえった。⁽²²⁾ 虫の音が聞こえだした。その虫の声にかりかりというナップザックのなかの音がまじった。いつしか老婆のすすり泣きの声はやんでいった。が、もう一つの急行はなかなか来なかった。

私はため息をついた。

と、その時、また老婆の声が聞こえた。

⁽²³⁾ 「夢いめだない。みんな、夢だない」

私はそれにこたえる孫娘のことばを待っていた。しかし、孫娘は何とも言わなかった。

ややしばらくして、一段と高い声で老婆が言った。

「夢は、生きる、火だない」

(阿久津哲明「短い夏」による)

〔注1〕一尺——かね尺で約三十・三センチ、くじら尺で約三十七・九センチのこと。

〔注2〕「くない」——「くだね」の意で用いられている方言の一つ。

問1 傍線番号(1)「曾良」は芭蕉の弟子であるが、それ以外の芭蕉の高弟を、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

1

- ① 井原西鶴
- ② 与謝蕪村
- ③ 松永貞徳
- ④ 小林一茶
- ⑤ 向井去来

問2 傍線番号(2)・(4)・(7)・(11)・(19)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

2

6

(2) 一ハク

① 生活が窮ハクする

② ハク車をかける

③ 意志ハク弱

④ 各地を漂ハクする

⑤ ハク来品を珍重する

(4) 鐘ロウ

① 新ロウと新婦

② 砂上のロウ閣

③ 町から町へと放ロウする

④ ロウロウたる歌声

⑤ 寺院の回ロウを歩く

(7) 供ヨウ

① 後継者のヨウ成

② 国旗の掲ヨウ

③ 人心が動ヨウする

④ 憲法をヨウ護する

⑤ 被災者を収ヨウする

(11) 根キヨ地

① キヨ住空間を広くする

② 人類初の快キヨ

③ 不法占キヨする

④ キヨ離をおく

⑤ キヨ可を得る

- (19) ジュ命
- 6
- ① ジュ皮をはぐ
 ② 秘伝を伝ジュする
 ③ ジュ教思想を学ぶ
 ④ 喜ジュを祝う
 ⑤ 特ジュで潤う

問3 傍線番号(3)・(6)・(8)・(17)・(20)の本文中における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

7

11

- (3) つづら折りの道
- 7
- ① 幾重にも曲がりくねった坂道
 ② 急な斜面を登り続ける山道
 ③ 蔓草つるが行く手をふさぐ細い道
 ④ 土砂が崩れた危険な道
 ⑤ 歩くのに苦勞するでこぼこした悪い道

- (6) 観念して
- 8
- ① 満足して
 ② 気をきかせて
 ③ あきらめて
 ④ 物思いに沈んで
 ⑤ あわただしい気持ちで

(8)

血なまぐさく

9

① 興奮したさまで

② 勇猛なさまで

③ 苦しげなさまで

④ 下品なさまで

⑤ むごたらしいさまで

(17)

どぎもをぬかれて

10

① 気が抜けて

② とてもうれしくて

③ 一瞬心を奪われて

④ 非常に驚かされて

⑤ ひどくおびえて

(20)

不愠

11

① 理由がわからないこと

② かわいそうなこと

③ 好ましくないこと

④ 思いやりがないこと

⑤ 信じられないこと

問4 空欄番号

(5)

(10)

(14)

に入る語句の並びとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選ん

でマークしなさい。

12

- ① 気ままに——ふらふらと——ぼんやり
- ② 気ままに——ぼんやり——ふらふらと
- ③ ふらふらと——気ままに——ぼんやり
- ④ ふらふらと——ぼんやり——気ままに
- ⑤ ぼんやり——気ままに——ふらふらと

問5

傍線番号(9)「ひとりぼっちをごまかすように私はそこで咳ばらいをした」とあるが、「私」がこのようなことをしたのはなぜか。その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

13

- ① 鬼気迫るものを感じ、自分を奮い立たせたかったから
- ② もののあわれを思う中で、ふと自分の孤独を感じたから
- ③ 急にこわくなって、だれかの注意をひきたかったから
- ④ 自分には家族や仲間がいて、ひとりではないと思ひ直したから
- ⑤ 自分も戦いをした人々の仲間であることを、彼らの霊に訴えたいと思ったから

問6 空欄番号

中からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

(12)

・ (13)

・ (16)

・ (21)

14

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の

17

14 (12)

- ① 一望のもとに
- ② 一双をなして
- ③ 一丸となって
- ④ 一堂に会して
- ⑤ 一門のうちに

16 (16)

- ① おそろおそろ
- ② 悲しげな声で
- ③ あきらめたように
- ④ ものすごい勢いで
- ⑤ 悠然とした様子で

15 (13)

- ① 消え入るように
- ② 逃げるように
- ③ そびえるように
- ④ かまえるように
- ⑤ とりつくろうように

17 (21)

- ① かつちりと
- ② きちんと
- ③ ちらっと
- ④ おどおどと
- ⑤ 堂々と

問7 傍線番号(15)「生い茂る夏草の上に、蟬が一匹、仰向けに落ちて死んでいた」とあるが、この「蟬」の本文中における意味

の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

18

- ① ひとりきりで旅をした時に感じた空虚感をともなう孤独さの象徴
- ② ひとり自然に囲まれ、人間の栄枯盛衰について考えたときのはかない生命の象徴
- ③ 松尾芭蕉のあとをたどって歩いたときの、ことばには表しがたい文学的情趣の象徴
- ④ 合戦場あとを見て回ったときに思いをさせた戦死者たちの生まれ変わりとしての象徴
- ⑤ 旅の途中に目にした山なみや木々の緑、合戦場あとの夏草など、季節感の象徴

問8 傍線番号(18)「あれもない。これから楽になる矢先がない。四十五やそこらでない」と、傍線番号(23)「夢だない。みんな、

夢だない」との間で、老婆の心情がどのように変化したと考えられるか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

19

① 「あれ」の思い出話をしたかったが、孫娘がその話題に触れたがらないので、その悲しみの深さに気づき、なぐさめ励まそうとした

② 「あれ」の人がらななどを言っても、孫娘が自分のことばを否定ばかりするので、故人のことをさっさと忘れようとする孫娘に対して非難の気持ちをぶつけた

③ 「あれ」がはかなく不幸な一生しか送れなかったことをあわれんでいたが、生きている間には楽しいこともあったはずだと考え、少し明るい気持ちになった

④ 「あれ」が生前苦勞ばかりしていたことを思い出して、世の中の不公平さに怒りを感じたが、自分の力ではどうしようもないことなので忘れるしかないと思った

⑤ 「あれ」が若くして死んでしまったことに理不尽さを感じ悲しみにくれていたが、生命のはかなさや生きることがを思い、自分の気持ちを整理しようとした

問9

傍線番号(22)「虫の声が聞こえた」とあるが、この部分の情景描写はどのような効果をもたらすと考えられるか。次に挙げる松尾芭蕉の俳句の中で、それと同じ趣を持つものとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

20

- ① 草枕犬も時雨しぐるるかよるのこゑ
- ② 行く春や鳥啼なき魚の目は泪なみだ
- ③ 海かみくれて鴨かもの声ほのかに白し
- ④ 閑しづかさや岩にしみ入る蟬せみの声
- ⑤ ほろほろと山吹散るか滝たきの音

問10 本文の内容と表現の特徴を説明したものととして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

21

- ① 巧みに話を進めながら、短い文を積み重ねた平淡な文章構成で、主人公が人間や生物の死を静かに見つめる視線を描いている
- ② 重苦しい死という現実が、だれの生活の身近なところにも存在するという問題を、改行を多用する詩的表現で深刻に描いている
- ③ どうにか生き続けている蟬と、死んでしまった人間との明確な対比を通して、主人公が死というものを達観していく様子を描いている
- ④ 各世代によって、死に対するとらえ方が異なるという人類の普遍的なテーマを、観察にもとづいて客観的な文体で描いている
- ⑤ 現実離れた幻想的な情景描写の中、あらゆる生物が避けることができないう死を、厳粛なものとして描いている

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(51点)

自分は他者の心を正確に掴むことができないのではないか。この問いはおそらく現代人の誰をも一度は捉える問いである。たとえば、夥しい小説がこの問いをめぐって書かれている。その多くはこの問いを心的異常に重ね合わせて扱っている。こうして暗く閉ざされた主題が成立する。

だが、この問いは、自分は自分自身の心を正確に把握していないのではないかとより根底的な問いのひとつの系にすぎない。にもかかわらず人は、この根底的な問いの存在を忘れようとする。人は、他者の心を思い描くことができないという苦悩のみ捉えられて、それがほかならぬ自己自身という謎にかかわる問題であることに気付かないのだ。

(3)、日常生活においては、たとえば傍若無人というほかない人間もいれば、およそ他人への思いやりというものに欠けている人間もいる。逆に、情が濃すぎる人間もいれば、他人に気を使いすぎる人間もいる。要するに人の気持ちがわかる人間もいればわからない人間もいるのだ。ここでは、わかるわからないは技術の問題にすぎないように思える。他人の気持ちがわからないのはそのための技術を習得していないということにすぎない。

(7)、具体的な例を挙げて考えてみると、わかる人間とわからない人間とが截然と区別されるというようなものではないことが明らかになる。つまり、他人の気持ちがわかる人間もわからない人間も、じつは相手次第なのだ。ある人間はある人間に気持ちのわかる存在だと思われるだろうが、しかし別の人間にはまったくわからない存在だと思われるだろう。あるいは時をへだたてて接してみると、気持ちのわかるつもりでいた人間がまったくわからない人間になったりしている。これは自然なことであって、わかるわからないは、物事への関心を、どの領域でどの程度それぞれが共有しているかということにすぎない。家庭の外では他人の気持ちがわかる情の厚い人間と思われているながら、家庭の中ではまったく家族の気持ちを理解しない存在であると思われているというようなことはよくあることだ。おそらく、家族という親しい関係のなかでは、思い方の領域とその程度の差がきわだつのである。親しさが増すと逆に相手の気持ちがわからなくなるように思われたりするものためだろう。ここでは、

他人の気持ちがわかるわからないは (11) な問題にすぎない。

しかし、他者の心を正確に掴むことができないのではないかと自分自身への問いは、ほとんど絶対的な次元へと移行してしまっているのである。この問いは、他者の心を正確に掴むことなど決してできないという絶望的な答えをすでに用意しているといつてよいからである。この場合、人は二つの選択肢の前に立たせられる。¹²⁾ 敗れ去るに決まっている闘いに挑みつづけるか、あるいは最初からそれを断念するか。いずれも、絶望的な答えに達するための絶望的な道であるというほかはない。

なぜこのような結果になるのか。いうまでもなく、¹³⁾ 他者の心に達することができないという思いは、ただ、自己自身への過剰な、だから決して満たされることのない関心によつてのみ発生するからである。すなわち、過剰な自己意識が¹⁴⁾ トウ達不可能な他者の心という幻影をかたちづくつてしまうのだ。問いの絶対性は、自己自身という謎の絶対性に起因している。他者の心を掴むことができないという苦悩は、他者に向かう苦悩ではなく自己に向かう苦悩なのだ。この苦悩を¹⁵⁾ ジョ去するためには、むろん、問いそのものを批判し吟味しなければならない。だが、問いも苦悩も歴史のものであり文明的なものである。批判も吟味も歴史的かつ文明的でなければならぬ。それはきわめて困難なことだ。

(16)、他者の心に達することができないという絶対的な苦悩は、絶対的な他者の心に達することができないという苦悩に接している。絶対的な他者、それは神であっても、宇宙の根本法則であっても、また人類の (17) であつてもよい。予測を超えて悲惨にまた残¹⁸⁾コクに展開してゆく人類の歴史はいったい何を意味しているのか。あるいはまた、広大な宇宙のなかにあつて人類の¹⁹⁾タン生と死滅はいったいどのような意味をもちうるのか。これらの問いもまた、自分は他者の心を正確に掴むことができないのではないかという問いに (20) ものである。

人類は人類自身によつてかたちづくられてゆく世界という事件の意味を知らない。不安は人類によつてもたらされたにもかかわらず、人類はそれを操作することを知らないのだ。いうまでもなく、この苦悩こそ現代文明の全域を覆っているものにほかない。

問いもまた苦悩も、自己が自己であると同時に自己についての自己であるという²¹⁾パラドクス、人間に固有なパラドクスから発

生していると考えることができる。人間は同時に二つの次元に足をかけているのであり、矛盾はそこに起因している。⁽²²⁾ 矛盾は、自己という微小な仕組みをめぐる謎としてあらわれ、また人類という巨大な仕組みをめぐる謎としてあらわれる。⁽²³⁾ 他者の心に達することができないという苦悩は、広大な裾野^{すその}を持つているといつてよいのだ。

(三浦雅士『主体の変容』による)

問1 傍線番号(1)・(2)・(4)・(21)の本文中における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選んでマークしなさい。

22

25

(1)

主題

22

- ① 強く訴えたい説
- ② 解決を求められている問題
- ③ 作品をつくるときの動機になる材料
- ④ 表現の中心となる思想や事柄
- ⑤ その人が判断の基準としている考え

(2)

系

23

- ① 求めているもの
- ② つながりのあるもの
- ③ 中心となっているもの
- ④ 行きつくところ
- ⑤ もとの形

(4)

傍若無人

24

- ① 周囲に対して、十分に配慮して行動する
- ② 相手に対して、分別を欠いた行動をする
- ③ 相手の前で、まったく知らぬふりをする
- ④ 人にあるまじき態度や行動をする
- ⑤ 勝手気ままな行動をして、人目を気にしない

(21)

パラドクス

25

- ① ふつう考えられる内容とは反対の論理の方向であること
- ② その言葉の意味とは逆の意味がこめられていること
- ③ ほんとうは真実であるのに、そうは思われないこと
- ④ ひとつの間違いが、さらに間違いを生むということ
- ⑤ 論理的に考えるとつじつまが合わないが、真理を突いていること

問 2

空欄番号

(3)

(7)

(16)

に入る語の並びとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選ん

でマークしなさい。

26

- ① だが——たとえば——むろん
- ② だが——むろん——たとえば
- ③ たとえば——むろん——だが
- ④ むろん——たとえば——だが
- ⑤ むろん——だが——たとえば

問3

傍線番号(5)「わかるわからないは技術の問題にすぎないように思える」とは、どういう意味か。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

27

- ① 人の気持ちがわかるわからないは、まず自分自身の心を正確に把握するための技術というものが存在するかどうかによるのではないか
- ② 人の気持ちがわかるわからないは、他者の心を理解するための技術を、自己以外の他者から学んだことがあるかどうかによるのではないか
- ③ 人の気持ちがわかるわからないは、他人の気持ちを思い描くための技術を習い覚えているかどうかによるのではないか
- ④ 人の気持ちがわかるわからないは、人の気持ちがさまざまである以上、優れた技術を数多く持っているかどうかによるのではないか
- ⑤ 人の気持ちがわかるわからないは、他人に対して自分自身の気持ちをうまく表現するための技術を持っているかどうかによるのではないか

問4 傍線番号(6)・(8)・(14)・(15)・(18)・(19)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選んでマークしな

さい。

28

33

(6)

習トク

28

- ① 情報を秘トクする
 ② 部下をトク励する
 ③ 温厚でトク実な人から
 ④ 文章トク本
 ⑤ 自分であるのがトク策だ

(14)

トウ達

30

- ① トウ徹した論理
 ② 入場者が殺トウする
 ③ 物価が急トウする
 ④ 音楽にトウ酔する
 ⑤ 相手を圧トウする

(18)

残コク

32

- ① 西欧の暗コク時代
 ② コク倉地帯
 ③ コク明に記録する
 ④ 世間のコク評をあびる
 ⑤ 官報でコク示する

(8)

へダてて

29

- ① 組織をカク充する
 ② 悪事が発カクする
 ③ 威カクの姿勢
 ④ カク年に行われる調査
 ⑤ 条件のカク差を是正する

(15)

ジヨ去

31

- ① 通行止めを解ジヨする
 ② 能力の欠ジヨ
 ③ 車がジヨ行する
 ④ 年次をおつてジヨ述する
 ⑤ 秩ジヨを保つ

(19)

タン生

33

- ① 陰謀に加タンする
 ② 熱意に感タンする
 ③ キリストの降タン祭
 ④ タン整な顔立ち
 ⑤ タン念に調べる

問5 傍線番号(9)「これ」が指す内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

34

- ① 相手の気持ちが変わるつもりでいる人間が多いこと
- ② 時がたつにつれて、気持ちのわかる人間が減っていくこと
- ③ 時と相手により、人の気持ちに対する理解の仕方が変わってくること
- ④ 相手次第で、物事への関心がいろいろと移り変わっていくこと
- ⑤ 相手をわかろうとする努力の程度は、相手や場所によって変わってくること

問6

傍線番号(10)「親しさが増すと逆に相手の気持ちがわからなくなるように思われたりする」とあるが、その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

35

- ① 親しさを増すことにより、お互いの気持ちはいつも一致しているはずだと思おうようになるが、人はそれぞれ関心が異なるため、実際は気持ちが一致していないことが多いから
- ② 親しさを増すことにより、相手の気持ちをより深く理解できているという自信が生まれる一方で、相手に対する関心が薄れるため、相手の気持ちをあまり考えなくなるから
- ③ 親しい関係のなかでは、相手の心に無関心となり、自分の気持ちを相手に説明しようとする努力をしなくなるから
- ④ 親しければ親しいほど、お互いの関心の領域が重なるようになり、自分の気持ちなのか相手の気持ちなのか、区別することが難しくなってくるから
- ⑤ 親しい関係のなかでは、同じような関心を共有していることが多いため、かえってお互いの思いの違いの方がはっきりと見えてしまうから

問7 空欄番号

れ一つずつ選んでマークしなさい。

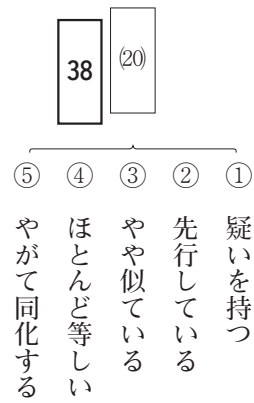
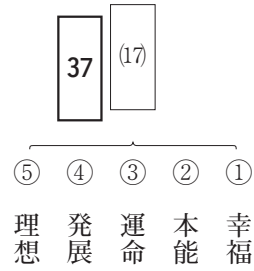
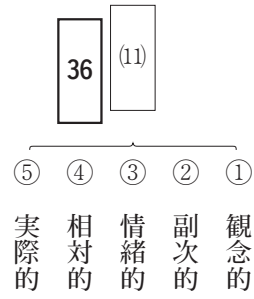
(11)

(17)

(20)

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ

36
38



問8

傍線番号(12)「敗れ去るに決まっている闘い」とは、どのような闘いか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

39

- ① 自分自身への問いかけを間断なく続けるという闘い
- ② 他者の心を正確に掴もうと懸命に努力する闘い
- ③ まったく理解できない他者の心との闘い
- ④ 絶望しそうになる自己の心との闘い
- ⑤ 過剰な自己意識を抑えこもうとする闘い

問9

傍線番号⁽¹³⁾「他者の心に達することができないという思いは、ただ、自己自身への過剰な、だから決して満たされることのない関心によってのみ発生する」とは、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

40

- ① 自己自身とは何かという問いは絶対に答えの得られない問いであるため、その代わりに自己にとって他者とは何かという問いの答えを求めることによって、自己自身への関心の一部を満たそうとする
- ② 自己自身とは何かという問題に過剰な自己意識を持って取り組むとき、そこにあらわれるのは挫折させつと満たされない思いであり、結局、他者の心がわかるかという根底的な問題も解決されなまま残ることになる
- ③ 人間が最も関心を持っているのは自己自身であり、その自己を基準にして他者の心を掴もうとするため、自己とは異なる他者の心を正確に掴むことができなくなってしまふ
- ④ 自己自身の絶対性に対して強い関心を持っているが、他者の心を正確に掴むことができないという事実が、自己とはかわりなく存在する他者に対して不安をつくり出している
- ⑤ 人間にとって自己自身は絶対的な謎であるため、自己自身への関心は満たされることがなく、自分の心を正確に掴めない自分は他者の心を正確に掴めるはずがないということになる

問10 傍線番号(22)「二つの次元に足をかけている」とは、どのような状態を指すのか。その説明として最も適切なものを、次の①

⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

41

- ① 自己の心と他者の心を、両方とも正確に掴もうと努力している状態
- ② 個としての人間が人類の一員としての人間になろうとしている状態
- ③ 主観としての自己と客体としての自己を同時に併せ持っている状態
- ④ 自己が自己自身であるのと同様に、他者もそれぞれ自己自身であるという状態
- ⑤ 不安を生み出す存在であると同時に、その不安にさいなまれてい存在であるという状態

問11 傍線番号(23)「他者の心に達することができないという苦悩は、広大な裾野を持っている」とは、どういうことか。その説

明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選んでマークしなさい。

42

- ① 他者の心に達することができないという苦悩は、自己自身という問題においてよりも、人類全体や宇宙の問題における根本的な苦悩という大きさを持っている
- ② 他者の心に達することができないという苦悩は、自己自身に向かう苦悩を根底として、人類全体や宇宙の根本法則に向かう苦悩にまで大きな広がりを持っている
- ③ 他者の心に達することができないという苦悩は、微少な問題から巨大な問題へと広がることによって、次第により大きな苦悩となっていく
- ④ 他者の心に達することができないという苦悩は、人類全体としての苦悩から始まり、多様な個人の自己としての苦悩へと大きく広がっている
- ⑤ 他者の心に達することができないという苦悩は、個人の苦悩というよりも、不安を操作することのできない現代文明がつくり出した苦悩である